

論 文 内 容 要 旨

舌喉頭矯正術による乳幼児の睡眠、夜泣き改善評価

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

災害医療歯科学講座法医歯科学 山口里恵

(指 導：山田良広 教授)

論文内容要旨

舌喉頭偏位症 (ADEL : Ankyloglossia with Deviation of the Epiglottis and Larynx) は、舌小帯の有無にかかわらず舌および喉頭の前上方への偏位による呼吸抑制と上気道抵抗の増加のため、乳幼児では、チアノーゼ・睡眠時無呼吸・寝つきが悪い・夜泣き・啼泣・抱き癖・反返り・腹部膨満・向き癖・身体が硬い・手足が冷たいなど多様な症状を呈する。舌小帯およびオトガイ舌筋の前束の一部筋層を切除する舌喉頭矯正術 (CGL : Correction of the glosso-larynx) により舌・喉頭が後下方へ降り呼吸が促進され、さらに喉頭が直立し上気道の抵抗が減少する。これらの症状は CGL 直後から劇的に解消される。

夜泣き、寝つきが悪いなど児の睡眠障害に悩み、CGL を希望して来院するケースは少なくない。生活記録表、問診表および生体加速度計である腕時計型アクチグラフを用いて、CGL による乳幼児の睡眠と夜泣きの改善効果について検討した。

CGL を希望する乳児とその母親 19 名に対し、CGL 前と術後約 1 ヶ月に、母親に生活記録表と問診表に記入してもらい、啼泣時間、啼泣回数、母親のアンケートについて解析を行った。またアクチグラフ (米国 AMI 社製) を児に装着してもらい、専用解析ソフト AW2 を用いて CGL 前後の睡眠覚醒リズムについて解析した。尚、本研究は本学研究倫理審査委員会の承認後、母親に説明し同意を得て行った。

生活記録表の解析の結果、CGL 後、総啼泣回数と総啼泣時間、夜間啼泣回数と夜間啼泣時間、1 回の平均啼泣時間いずれも有意に減少した ($p<0.05$)。母親のアンケートでは、ほとんどの母親が子育ては楽になったと感じ、CGL を受けたことに満足していた。アクチグラフ解析の結果、CGL 後、Sleep Efficiency (睡眠効率) ($p<0.01$)、Longest Sleep Episodes (最長の継続睡眠時間) ($p<0.05$) は有意に増加し、Sleep Latency (入眠潜時) ($p<0.01$)、Activity Index (体動活動指数) ($p<0.05$)、Sleep Fragmentation (睡眠分断指数) ($p<0.01$)、Wake after Sleep Onset (入眠後の覚醒時間) ($p<0.01$)、Long Wake Episodes (睡眠中 5 分以上の覚醒回数) ($p<0.05$)、Longest Wake Episodes (最長の覚醒時間) ($p<0.05$) は有意に減少した。CGL は ADEL 乳幼児の啼泣、夜泣き、睡眠障害を改善することが示唆された。